



さわやか



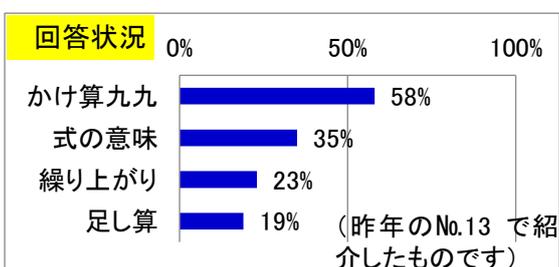
指導の鉄則！

学習指導にも生徒指導にも、『指導の鉄則』というものがあります。それは、「つまずいていたら、つまずいているところまで戻って指導する。」ということです。

教育、学習は積み上げ型です。一つの力が身に付いて、次の力が身に付くのです。例えば、足し算やかけ算ができて、わり算の筆算ができるということです。わり算の筆算ができない子は、足し算か引き算、かけ算のどこかの力が身に付いていないのです。



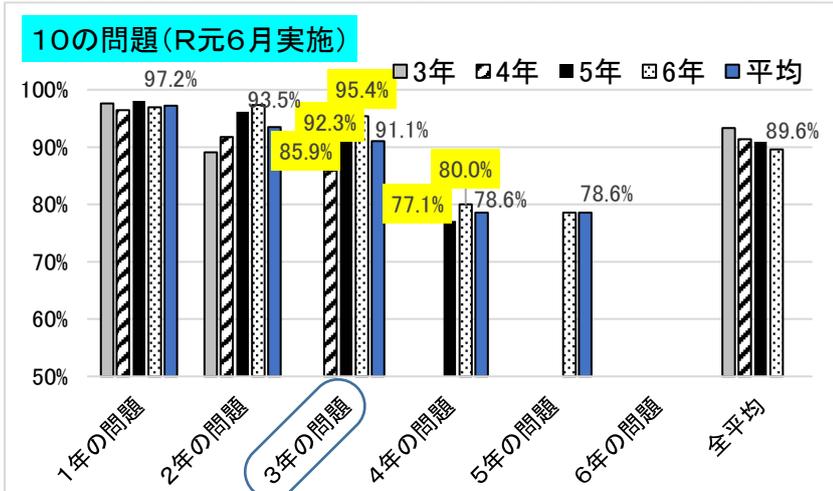
四則計算の積み残しを解消する夏休み学習会



左の「回答状況」は、4年生の算数の問題で、つまずきがどこにあったかを分析したものです。実に興味深い資料です。文章題を解くまでにはたくさんのプロセスがあります。グラフの項目はその一部にすぎませんが、かけ算九九で間違ってる子どもが6割もいたということは驚きです。

系統性の強い算数科では、基礎がしっかり身に付いていないと、正しく回答することは困難です。

本校児童の積み残しの実態！



左のグラフは、各学年の「10の問題」の正答率を表したものです。

3年生の問題は、4年生、5年生、6年生が解答しています。その正答率は、それぞれ、86%、92%、95%という結果でした。

4年生の問題を解いた5年生の正答率は77%で、6年生の正答率は80%でした。

5、6年生ともに、約2割の子どもが4年生の問題に積み残しがあるということです。

積み残しを特定できれば、その解消が可能になります。

積み残しをつくらないこと。積み残しがあったら、それを特定して追指導することが必要です。算数に限らず、他教科でも積み残しはありますが、それを特定することは困難です。本校では、「10の問題」を活用して積み残しを特定しています。放課後学習会を通して積み残しの解消を図りましょう。

右のグラフは、4年生問題の10問のそれぞれの正答率です。⑥と⑦の正答率は、60%台です。5、6年生でも4割の子が正しく解けていないことにどう感じますか？

⑥の問題・・・1/100の位の小数×2位数の筆算
2年生の「2位数-1, 2位数=2位数の減法計算」の正答率は、82%でした。

四則計算の完全習得が急務と考えます。

